

**J** **apanese text**

2018年 春/夏号 日本語編

旅館

**海南風**

[ The Ryokan Collection ]

写真 = 工藤憲二 文 = 鈴木博美

p.040

**風が南から吹き始めると、日本に夏が訪れる。この季節にぜひ滞在したいのは、海辺の旅館。時の流れとともに刻々と表情を変える美しい海の景色と、海を渡り吹く風が、慌ただしい日常の中で疲れた心に新しい空気を流し入れてくれる。**

日本は四方を海に囲まれた国である。島嶼群特有の地理や気候によって、日本は独特の生活文化を形づくってきた。国内の47ある都道府県のうち、海に面していないのはたったの8県のみ。太古の昔から多くの地域の日本人が海の恵みを楽しみ、その先に広がる未知なる世界に憧れた。南北に長く弧状に連なる日本列島の海の景色は、まさに千差万別。のどかで心に安らぎをもたらす淡路島の内海をはじめ、リアス海岸の絶景を一望できる賢島、熱海からは世界最大の海洋である太平洋のダイナミックな姿など、地域によってさまざまな個性溢れる表情を見せてくれる。それらの美しい風景を望む海辺の旅館に滞在するのであれば、景観を楽しむことに加えて、ぜひ感じてほしいのが“風”だ。

日本には、2000を超える風の呼び名があるといわれている。風は、季節によって向きを変え、同じ国とは思えないほどの気候の違いをもたらす。ときに厳しく、ときに心地よく吹く風と共に日本人は暮らしてきた。こんなにも数多くの名前があることから、風という自然が日本人の生活と密着し強く影響を与える存在であること、そして、その風の微細な違いを鋭く感じ分けてきた感性を知ることができる。農林漁業に携わる人ばかりでなく、たとえ都市部に住む人であっても、この国で生まれ育った者はおのずと風の動きを肌で知り、四季が巡ってゆくのを細やかに感じとっている。ひいては風は、目に見えないもの、形を残さないものに価値を見出すという日本的な美意識の象徴でもある。例えば、洗練された上品な趣があることを「風流」、芸術的美を表した姿を「風姿」

などといい、芸術や遊芸の世界において、世俗から離れ自然と調和する美しさに“風”を重ねた。

他の自然現象に先駆けて、季節の移ろいを真っ先に告げるのが季節風。海南風と呼ばれる、南方からの潤いを帯びたあたたかな季節風が吹き始めると、日本に夏が到来する。身を縮ませる冬の北風に対し、この海南風は一気に人々を開放的な気分へと誘う。見事な海景を望みつつ、湯上がりの肌に風を受け止めながら過ごすのはこの上ない贅沢なひとときだ。海面をきらめかせる太陽の光、波の音や磯の香り、そして心地よい風…… 大自然の息吹を感じながら過ごしているうちに、不思議と心が解き放たれてゆく。さらに、海に近い土地ならではの極上の美味を存分に堪能できることも、海辺の旅館の大きな魅力だ。海という雄大な自然に触れ、心にも新たな風を吹き込んでくれる旅館での滞在は、きっと忘れ得ぬ夏の思い出となるはずだ。

(p.041)

左上：最上階である11階に位置し、ヴィラ楽園の宿泊者だけが使用できる、スカイラウンジ「天上の棧敷」のデッキ。

上：海の庭「和楽」のベッドルーム。和風の落ち着いた雰囲気と心地よい眠りへと導く。

左：淡路島は、豊かな海が育む海産物の多種多様さで知られている。四季折々の美味しい魚介を存分に味わいたい。

(p.042)

上：英虞湾へ一直線に抜けるオーシャンビューの開放感あふれる客室「別棟エグゼクティブダブル」。身近に自然を感じながら、石づくりのバスタブで温泉を楽しめる。

中：日本でも有数の美しさを誇る英虞湾を望む眺め。周囲には伊勢神宮や熊野古道など、日本の歴史や文化を感じられる場所も数多い。

左：「黒鮑のカルパッチョ仕立て」は、春夏シーズンの名物。ひとつひとつ丁寧に獲られた賢島の天然鮑を使っている。

(p.043)

上：モダンなラグジュアリースイートの客室「誠波」。全面ガラス張りの窓からの眺めは、相模湾と部屋を囲む池とが一体となっているかのよう。非日常感溢れるひとときを楽しめる。

左：夕食に供されるのは、地魚をはじめとした厳選食材を用いた、目に

美しく繊細な日本料理。

右：まるで水に浮かんでいるかのようなガラス張りの「ウォーターバルコニー」。ラグジュアリースイートのゲストは、このスタイリッシュな空間で食事をとることができる。

写真提供= KPG

### ヴィラ楽園

「星と海と空が出逢う場所」をコンセプトにした客室は、和の趣のスイートルーム仕様。全ての部屋に、プライベート空間で潮風を感じながら温泉を楽しめる、眺めの良い温泉露天風呂付きのテラスを備えている。全客室が80㎡以上あるゆったりとしたつくりで、寄せては返す波の音に耳を傾けながらリラックスした時間を過ごすことができる。内海に囲まれた淡路島ならではの新鮮な魚介を中心に、肥沃な土地で育った淡路産のブランド野菜や淡路牛など、地元の食材を使ったバラエティ豊かな料理にも定評がある。

住所／兵庫県洲本市小路谷 20 部屋数／27 室

### ザ・ひらまつホテルズ&リゾート 賢島

日本国内のみならず、パリにも展開しているフレンチレストラン「ひらまつ」直営のsmallラグジュアリーホテル。和と洋が融合したモダンな客室からは、入り組んだ海岸線が織りなす美しい英虞湾を望むことができる。豊かな自然に包まれた賢島は古来より「<sup>みけ</sup>御食つ国」と呼ばれた食材の宝庫。地産地消をベースに、全国から最高の食材を集めて作る、ここでしか味わうことのできない極上の料理を目当てに訪れる人も多い。海景を楽しむ穏やかな時間と特別な美味が感動を呼び、記憶に残る滞在となるだろう。

住所／三重県志摩市阿児町鵜方 3618-52 部屋数／8 室

### ATAMI <sup>かいほうろう</sup>海峯楼

日本の伝統美を現代の暮らしに再構築する作風で、世界的に活躍する建築家・隈研吾が設計デザインを手がけた、自然とアートに包まれた宿。海を見下ろす高台に位置し、どの部屋からも雄大な海を大きな開口部から眺めることができる

つくりになっている。客室はわずか4室とプライベート感を重視。きめ細かなサービスや贅を尽くした料理に加え、美肌効果があるといわれる温泉も魅力だ。年に十数回ほど開催されている熱海海上花火大会では、その華やかな大輪が目の前に広がる様を館内から楽しむことができる。

住所／静岡県熱海市春日町 8-33 部屋数／4 室